

青梅市社会教育委員会議 6 月定例会会議録

令和 4 年 6 月 2 1 日
2 0 3 会 議 室
出席者 委員 1 0 名
事務局 3 名

1 開 会

【議 長】梅雨に入って、晴れ間の少ない蒸し暑い日が続いている。石川県の能登の地震、2日も続けて震度6、5とかあると生活が乱れてしまうのではないかと。東側にもいつくるか心配。暑い夏が始まったが、なんとか無事に乗り切っていきたい。

【課 長】市内小中学校の新型コロナウイルスの感染者、ここ数日感染者なしの報告がきている。社会教育事業も、感染対策をしながら行っている。感染者数がだんだんと減ってもらえればと思う。

2 報告事項

(1)令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会の開催について (報告資料 1)

ア 日 時 令和4年7月12日(火)午後3時から

イ 場 所 アキシマエンス

ウ 参加者 宮野議長、随行 土屋

【事務局】事務局から概要説明。

(2)生涯学習事業実施予定・結果 (報告資料 2)

【事務局】事務局から概要説明。

(3)その他

特になし

3 協議事項

(1)青梅市社会教育委員会議5月定例会会議録について (協議資料1)

【事務局】事務局から概要説明。

～承認～

(2)青梅市美術館運営委員会委員の推薦について (協議資料2)

任期 令和4年10月7日～令和6年10月6日

【事務局】事務局から概要説明。

～白井委員に決定～

(3) 成人年齢引下げに伴う成人式の新たな名称について (協議資料3)

【事務局】事務局から概要説明。令和2年度に、成人年齢引下げに伴う成人式のあり方について、提言をしたが、その際、式典の名称については変更して実施することが望ましいとしていた。

【議長】事務局としての名称(案)はあるのか。

【事務局】案として「^{はたち}二十歳を祝う会」はいかがかと考えている。成人年齢が18歳に引き下げられることから、「成人」という言葉はさけ、「二十歳」を用いることで、対象者が一目でわかること、今までの成人式の目的である「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」これを、これからも継続していくことから、祝いの式典として「祝う会」とした。

【委員】質問になるが、成人になる18歳に関しては、何かあるのか。

【事務局】前の教育長からも、18歳のときに何かやった方がいいのではないかということもあったが、18歳という年齢は、受験時期ということが大きくあり、対象者を集めて何かをするには、1月にやらないにしても難しい。お祝いの手紙等を送ることも検討、協議したが、見送られ、20歳で式典を行うことに決定した。

【委員】新成人たちは成人になったときにお祝いしてもらえなくなる。これに関して新成人たちが思っていることはないのでしょうか。やる側の都合という気もする。出席する新成人は楽しみにしているのではないかと。

【事務局】直接の対象者に、意見を聞くということはない。人生に1回やるという中で、対象者同士が再会するというのも大事にしている。18歳で行うと、受験や部活動で人がなかなか集まらないということも想定される。今までの青梅の成人式は、毎年76%前後の高い出席率であることから、続けて20歳でやっていきたいと考えている。

【委員】18歳で成人式を行う行政はあるのか。

【事務局】正確な数字は分からないが、18歳で行う市はなくはないが、ほぼ全国的に20歳で行う予定になっている。

【委員】成人式の目的で「おとなになったことを自覚し」ということが、本来の大きな目的である。18歳で何もない、19歳、20歳で祝う会を行うと、「成人」という自覚をどこでするのだろう。大人入りというような場面がない。どこかに「成人」という言葉が入らないと、年齢的な話だけになってしまうように思う。

【委員】20歳の場合、成人式の目的「おとなになったことを自覚し、はげまし」と晴れがましいイメージがとともある。大人側の都合で、18歳に成人年齢が下げられたのだと思う。今の子どもたちに接していて、17歳、18歳、19歳で成人の自覚はできているのでしょうか。自覚できていないとしたらそれは大人達の責任だと思っている。これまで課題のある子どもと家庭を見てきた中で、学生時代に区切りがつかたり、青梅市での生活が一段落して違う集団・

違う地域・違う人と接したあとに青梅にくるので、とても青梅が好きになると思うし、今まで否定的に育った小中学校時代を肯定して迎えることもできる。そういった子どもたちにたくさん会ってきた。まだ自分はどうしたらいいのだろうかという地に足がつかない状況で、新たな成人として大人にお祝いされても不安が先に立つのではないか。

【委員】18歳でお祝いした方がいいというわけではなく、20歳でやるとして、20歳の方に「成人」をいかにして自覚させたらいいのか。「成人の日二十歳を祝う会」というように、あなた達は「成人」という言葉を入れてはどうか。年齢的な今までの20歳になれば成人ということは社会通念上の考えであったが、今後社会は18歳で成人という見方が広がっていく。学校の教育の中でも18歳が成人というように教育しきっているので、これから何年かすると子どもたちの意識の中で、18歳は成人という意識が浸透していく。今後意識は変わってくると思う。

【議長】これまで成人＝20歳という価値観が一つだったが、社会状況の変化、社会を維持していく全体の構造の中で成人が18歳となった。青梅市として、「成人」ということばを意識して使うことはいいことだと思う。「成人の日」を名称の中に位置づけて、青梅市は20歳としてお祝いするという意味合いを込めた方がいいのではないか。

【委員】選挙権が18歳に下がっていて、政治的な部分もある。高校現場も最初は戸惑っていたし、今も戸惑っているところはあるが、法律として決まっているので、教育現場はそれに準ずる形で変革しなければいけない。成人と20歳がちがうという現実を考えると、社会の認識がまだ未熟な部分であるが、いずれ熟してくるときがくる。そのときに家庭教育や学校教育の中で、18歳の成人を1人の成人としてどう認知していくのか。行政側もどういう発信していくのか。18歳で市長・教育長が、「成人おめでとうございます、これから成人ですよ」というメッセージを発信する。諸般の事情等で一同に会するのは、20歳で行った方がいいという青梅スタイル的な考えもいいと思う。この議論は、意見の分かれる問題である。色々な意見があったことを議事録に残し、教育委員会でお話いただければと。どう自主性を持たせるかは大人の責任。青梅市として祝うのはどこでやるのかということである。

【委員】式典をどうするかという話。18歳という区切りに市として、成人のお祝いをいかにするか。以前生まれた年、20年前の新聞記事が同封されたのを送っていただいたことが記憶としてあったと思う。式典は別として、成人になったというメッセージを18歳に何らかの形で行った方がいいのではないか。

【委員】娘の時に実行委員会から、成人式来てくださいという案内と、新聞が挟まっていたのを思い出した。

【事務局】式典は20歳で行い、18歳の新成人に対しては、市長名で広報等により発信する必要性は認識している。工夫してできるようにしていきたい。

【委員】娘が昨年成人式で、新型コロナウイルスの関係で式典が中止となっ

たが、成人の日に娘とゆっくり話すことができよかつたと思う。20歳でやる式典は市が行い、18歳の成人の時は、親が家庭教育として成人なんだよということがいいことだと思ふ。

【議長】言葉でまとめるのはむずかしい。成人の式典の呼称、青梅市主催の式典をどうするかということ。成人の日を記念してという意味合いをどこかに入れた方がいいと思ふ。今年18歳を迎える成人の方へのメッセージの発信は必要。

【委員】市からのメッセージをきっかけに家庭で話すのもいいこと。なかなか面と向かつて話すことができないこともあると思ふので、きっかけが何かあると、家庭でも話がしやすくなるのではないかな。

【議長】「成人の日を記念して」ということについては、教育委員会の方でも議論していただきたい。「二十歳を祝う会」は、青梅市が行う成人の方たちをお祝いする式典として挙行するということで、教育委員会でご議論いただきたい。

【事務局】色々いただいた意見を教育委員会の中でお伝えしながら、決めていきたい。

【委員】社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関する意見を述べることもできるので、議長、副議長が教育委員会にでることもできるのでは。今までやっていないことかもしれないが。

(4)教育委員との懇談会、テーマについて

ア 日時 令和4年8月3日(水)午後4時～(予定)

イ 場所 議会棟大会議室

ウ 出席者

宮野	吉野	富田	神山	市川	栗原	鈴木	鶴岡	白井	園田
○	○	○	○	○		○	○	○	

エ テーマ

(参考)

平成29年テーマ「子どもの成長を見守る手立てについて」

平成31年テーマ「学校と地域の連携について」

【事務局】事務局から概要説明。出欠確認をしたい。

【議長】懇談会では、皆様に考えていることをご発言いただく。「人口減少社会の中での地域教育の関わり方」、「コロナで失われた2年間を乗り越える方策について」をテーマ案として考えた。昨年の都市社連協の第1ブロックの研修会は「人口減少地域を支える社会教育」というテーマで青梅市が主催した。研修会の中で、色々な人との関わりを積極的にしていき、地域の中に人を呼び込んでいくという社会教育の進め方について考えた。コロナ3年目になるが、今年も地元の夏祭りが中止となった。東京都の無形文化財指定の

お囃子があるが、3年やらないと子どもたちも忘れてしまい、今までと同じようにはできなくなっていく。このコロナをどう乗り越えてどう進んでいくのかをみんな考えていくのもいいと思った。

【委員】コロナ禍で子どもたちの様子を見てみると、運動会や合唱コンクール、修学旅行が2年間できない状況であった。子どもたちにどのような影響がでるかという、集団で何か作り上げるという人との関わり方に難しさを感じてきている。それができなくなると何が起こるのか。SNSに入っていく、陰口なども出てくる。人との関わり方、地域との関係でも、地域の方がゲストティーチャーとして来ていただく、学校が職場体験等で地域に出て行って活動し得られる感受性、感動することや感謝の気持ちを持つことが難しい2年間だった。学校行事が中止なら地域活動もほぼ中止になる。子どもは、人との関わり、大人との関わり、上級生、下級生との関わりができない中で、人間関係の難しさがあるような気がしている。テーマとして、コロナ禍の現状だが、地域としての学校・子どもとの関わり方について意見交換できればいいと感じている。コロナ禍でも地域としてどういうことができるのかということ。

【委員】青梅市のコミュニティスクールの実践状況はいかがか。

【事務局】七小で行っている。うまくコミュニケーションのとりやすい地域で、うまくいっているようである。

【委員】福島県でもコミュニティスクールを進めている。学校運営協議会と地域の連携を文部科学省が進めているが、学校が旗を振っても地域が非協力的だとできない。地域の応援団と学校側が連携してうまくいっているところがあれば、どのようにしているのか聞きたい部分である。今後、小中一貫9年間で先生たちも人事交流し、子どもたちも9年間という中で学べるようなことがあれば、事例発表のようにケーススタディを行い、地域活性化のヒントにしていきたい。今社会教育の部分だと、学社連携、融合、一体ということがでてきているので、地域の中で私たち社会教育委員として何ができるのか、子どもを支えるという中で後方支援しなければいけないと考えている。子どもの居場所づくりから色々なことが始まっている。地域がどのように子育てをしやすい環境づくりをするかである。

【議長】数年前、学校の子ども、学童の子ども、夕やけの子どもという区分けがあり、お互い入っていく状況になかったと思う。安全管理の問題、管理者責任の問題等が要因であろう。地域の方が入っても、最初は学童・夕やけの連携は難しかったと思う。

【委員】今、部活動等もできる部分は地域の方にお願ひしながら、いいものを作っていこうとしている。今後は、地域の人、社会教育がいかにお手伝いできるかは教育問題として避けて通れない。

【委員】テーマとして、人口減少社会における地域の関わり方が話題になるのではないかと思う。人口減少とコロナの2年間については切り離せない。小中一貫やコミュニティスクールを青梅市が始めたとき、ちょうど娘が小中

学生の時で、小中学校の先生が入れ替わって教えるということも一部あった。刺激もありいいことだと思う。外から見ているだけだが、成木・小曾木地区の小学校について、当初地域の色々な思いがあったようだが、立ち上げた先生方、地域の方の努力で非常にいい方向に進んでいる。学校行事に地域の方が参加するということが伝統的に守られている地域もある。人口が少なくなる、子どもも少なくなっている中で、地域の中で教育ができることは何であろうかをテーマにすると色々な意見が出るのではないか。

【議長】そのような背景がある中で「地域の中で教育ができること～コロナで失われた2年間、人口減少社会の中で～」というテーマではいかがか。

【委員】平成18年頃学校運営協議会で、小中一貫やりますというお話で、モデルが成木小と七中だったと思う。全部の科目ではなく、国語だけとか、作文は小学校だけでなく中学3年生までとかあったような気がする。そのあとどうなったのだろう。

【委員】小中一貫は同じ敷地のキャンパスで、児童生徒の交流、小中の先生の交流でやっているところある。学校の統廃合の問題もあり中断しているところもあるだろう。

【委員】青梅市で小中一貫教育でやっていることについて、一貫という言葉であるが、教育過程がつながっているということではない。連携型で、中学校区とそこの小学校区でやっている。小中の先生が研修会を一緒にやったり、小学校の児童、中学校の生徒と一緒に挨拶運動したり、生徒会と児童会が交流を行っている。子どもの課題を小中の先生で話し合ったりもしている。青梅市型の小中一貫であり、カルキュラムをつなげているということではない。

【委員】青梅だけの問題ではない。学校を卒業したらおしまいという後方支援ではなく、学校を地域みんなが身近に考えないと。都市型の学校は難しい。

(5) その他
特になし

4 その他

【事務局】その他の配布物について説明

次回定例会 7月19日（火）